

成果の説明書

(氏名) 鈴木 耕太郎	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ○教育上の成果に関する事項 2023 年度は通年で演習 I (金曜 4 限)、演習 II (木曜 3 限) を担当、また前期には博物館概論 (金曜 1 限)、交換留学生用スペシャルセミナー II (金曜 5 限)、大学院日本文化特論 (金曜 6 限) を、後期には基礎演習 (木曜 5 限)、民俗学 (木曜 2 限)、地域文化論 (金曜 3 限)、交換留学生用スペシャルセミナー I (金曜 5 限) を担当した。また前期リレー講義として「地域づくり論」(水曜 3 限・第 9 回・第 10 回)、後期リレー講義として「地域づくりを学ぶ」(水曜 3 限・第 6 回) も担当した。 2023 年度は新型コロナウイルス感染症対策のために取りやめていた講義内のディスカッションを復活させた。前期の博物館概論ではやや戸惑いの様子も見受けられたが(受講生は皆、コロナ禍に入学し、講義を受けてきたこととも関係するように思うが)、後期の民俗学・地域文化論では互いにしっかり意見を交換し合う姿が見受けられた。また例年同様の取り組みとしては、博物館概論では、①学芸員さん(2023 年度は群馬県立歴史博物館の武藤直美氏)を招いて担当教員とセッションを行う、②有志を募って講義儀時間外に博物館施設に見学に行く(2023 年度は川口市立科学館および SKIP シティ 彩の国ビジュアルプラザ)を実施。また民俗学・地域文化論では①ピア・エデュケーションの促進という意味も込めて、立候補者を募り中間レポートの発表会(質疑応答含む)、②講義時間外に有志を募ってフィールドワーク(2023 年度は桐生市内)を実施した。なお、民俗学・地域文化論のフィールドワークは年度末に行ったため、参加者が少なく開催時期の見直しを検討したい。またスペシャルセミナーや大学院の講義でもフィールドワークを実施した。 なお、自身の成果とは言い違いが、指導する学生のなかで 4 年生(高柳美奈さん)が地域政策学部学生懸賞論文で優秀論文賞を受賞した。2022 年度の「最優秀論文賞」、2021・2020 年度の「奨励賞」とゼミの学生が受賞しているため、今後も積極的な応募を呼び掛けたい。 ○職務上の成果に関する事項 【学外業務】 1 : 立命館大学日本文学会 評議員 2 : 群馬歴史民俗研究会 例会委員 3 : 伝承文学研究会 同人 4 : 説話・伝承学会 委員 5 : 日本文学協会 委員 6 : 地方史研究協議会 2023 年度館林大会実行委員 なお、伝承文学研究会同人として 2023 年度大会(於: 國學院大學)ではシンポジウムの司会進行を務めた。 また、地方史研究協議会の実行委員として、第 73 回大会(館林大会)の 2 日目・共通論題の議長(議長団 3 名のうち 1 名)を務めることとなり、研究発表を終えた発表者と 90 分間にわたりテーマについて討議し、テーマを深める役を負った(同委員会は 2024 年 2 月で解散となった)。 【社会貢献活動】 1 : 玉村町歴史資料館からの依頼で企画展記念講演会「祇園祭と牛頭天王——夏の祭礼にこめられた人々の願い——」を実施(玉村町文化センター小ホール・2023 年 9 月 2 日)。	

2：高崎商科大学地域連携センター公開講座「『上毛かるた』から群馬学を学ぶ」担当（高崎商科大学・2023年10月7日） 3：高崎経済大学地域科学研究所主催第15回地元学講座「もっと誇れる群馬～「群馬の地酒」で楽しい、幸せな時を～」（講師：清水大輔氏）の司会兼コーディネーター（高崎駅材大学図書館ホール・2023年7月20日） 4：高崎経済大学地域科学研究所主催第15回地域めぐり「宿場町・倉賀野を見る、歩く～身近なまちの歴史探訪～」担当（コーディネーター）（倉賀野町周辺・2023年12月9日） ○研究上の成果に関する事項 【論文】 1：鈴木耕太郎・川邊絢一郎・平陽介・中村一輝・西野浩二・室田辰雄「鍋蔵山東明寺所蔵『心経会之祭文』に見る牛頭天王信仰——正月・心経会を考える」（『蓮花佛教研究所 紀要』第17号、2024年3月）。 【分担執筆（一般書籍）】 1：鈴木耕太郎「上野国の伝説とその足跡」「コラム 市神・牛頭天王と群馬の祭り・祭礼」（高崎経済大学地域政策学部観光政策学科編『大学的 群馬ガイド』昭和堂、2024年2月） 【短報・研究ノート】 1：鈴木耕太郎「館林・邑楽郡における弁財天信仰と道祖神信仰について」（『地方史研究』73巻5号、2023年10月） 【学会発表】 1：鈴木耕太郎「『縮小』する民俗事象——群馬県内の祇園祭・天王祭を中心に——」（歴史文化資料保全首都圏大学協議会「群馬県域における資料保存・継承の現在」於：群馬県立女子大学、2024年3月24日） 【研究会発表】 1：鈴木耕太郎『楽寺永禄 記』8月7日・8日・9日条輪読担当（永禄日記勉強会、2023年11月12日（日）・ZOOM）	2 その他の事項 ・科学研究費助成事業 若手研究（課題名「中世から近世への転換期に作成された牛頭天王信仰に関するテキストの総合的調査と研究」）。 3 次年度以降の計画・抱負 【教育面および社会貢献活動】 ・教育面では、昨年度はコロナ禍以前の形態に戻したものの、教員の余裕がなかったからか、やや一方的な講義の運営になってしまったように反省している。今年度はそうしたことがないように、双方向性の講義を心掛けたい。また「地域課題研究」などに応募し、地域（特に高崎市観光課）と連携した研究活動にも取り組みたいと考えている。 【研究活動】 ・2023年度はスケジュール管理が不徹底であったため、結果的に寄稿依頼1本を直線で断るなど、研究活動に支障が生じた。またコロナ禍の郵寄せも相まって、計画通りの研究遂行が難しく、結果的に科研費の期間を1年延長せざるを得なかった。今年度が科研費の最終年度となったため、しっかりと成果を出し続けたい。また自身が立ち上げた「牛頭天王信仰研究会」でも昨年度は共著論考を出せたので、今年度も引き続き研究紹介や調査報告などをメンバーと共に書き上げて成果を出していきたい。
--	--